

世界トンネル会議（アグラ）に初参加して

京都大学 西藤 潤

1. はじめに

2008年10月19日から25日までインドの都市アグラでWTC2008（世界トンネル会議）が開催された。私は幸運にもこの会議に参加する機会を与えられ、アグラへ行ってきた。本稿では、この会議の概要と私の感想を書き連ねたいと思う。

2. アグラ

会議の行われたアグラはインドの首都デリーから南へ200kmほどいったところに位置し、緯度でみると沖縄よりも少し北にある。日本からアグラへのアクセスは、一度デリーを経由するルートが一般的である。私がアグラに滞在している間はやや気温は高かったものの、天気恵まれ気持ち良く過ごすことができた。アグラ市街は私の思い描いていたインドのイメージそのものであり、市街のいたるところで雑踏と喧噪が感じられた。

3. 会議の様子

(1) 会場の雰囲気

会場となった Hotel Jaypee Palace は市街からは少し離れたところにあり、ホテル内は街中の喧噪からは切り離され落ち着いた雰囲気であった。会場はコンパクトにまとまっており、会場内の移動はスムーズに行えた。ネット環境については、無線 LAN が提供されておらず、また特設のインターネットスペースでは備え付けのパソコンで日本語を表示することができず、不便を感じた。会場ではプロシーディングスを含む大量のペーパードキュメントが配布されたが、ネットの事前配布やDVDのみで済ますなどの工夫があっても良かったと感じた。

(2) オープニングセッション

22日に行われたオープニングセッションではオーガナイザーの挨拶や表彰、書籍の紹介などが行われた。また、パーティル大統領のビデオメッセージも上映され、国家としての学会に対する意気込み、およびこの国際会議の重要性が感じられた。キーノートレクチャーでは、インドのトンネル事情について説明があった。

(3) オーラルセッション

オーラルセッションは3つの会場に分かれ、同時並行で行われた。私が参加したセッションではいずれも、活発に議論が行われ、参加者にとって有意義であったように思われる。ただ、残念なことに、発表者の欠席が多かった。これは欧米から遠いインドのロケーションが一つの理由であると推察され、インドで学会を行う上ではある程度仕方のないことであるかもしれないと感じた。

なお、私は“Analysis and Design Methodologies including Effect of Seismicity on the Underground Structure”というセッションで発表を行った。セッション名に Seismicity（地震活動）という単語が含まれているものの、地震に関連した発表は私だけであった。地震と急峻な山が多い日本の特殊な事情を改めて思い知らされた。

(4) ポスターセッション

オーラルセッションと同時に行われたこともあり、私はポスターセッションにはほとんど参加できなかった。また、多くの寄稿者が不在で、直接内容について討論することができなかった。今回の学会に限らず、ポスターセッションはこのような貼り逃げが多く、成功させるのは難しいと感じた。

4. あとがき

「トンネル」には、その国の環境や事情といった地域性が色濃く出るため、国や地域によって研究の対象や方向性が若干異なるように感じられた。この学会では、日本とは異なる海外でのトンネルに関する設計計画や施工事例などを多く見ることができ、私には大変興味深く勉強になることが多かった。一方、独特な発音を有するインド英語が聞き取れないことが多く、せっかくの勉強のチャンスをふいにしたことを悔やむと同時に、多様な英語に対応する能力が必要だと痛切した。

私は、体調不良のため最終日のバンケットには参加していないが、オーラルセッションに参加した限りでは、今回の学会は盛会のうちに終わったと感じた。今後も学会を通して情報の共有や技術的な交流が発展的に行われることが望まれる。



駅前の様子



アグラ城から望むタージマハル



オープニングセッションの様子



ウェルカムパーティ



中庭からみたホテル